

2019年度 地域連携活動報告書

連携先名称：高知県津野町

協定締結日：2016/7/26

活動状況：継続中

活動資金：自治体予算

担当教員（所属）：入江 彰昭（地域環境科学部）

活動体制（単位）：研究室

関連教員（所属）：宮林 茂幸（地域環境科学部）

活動目的：（１）津野町関係人口創出事業の実施

（２）津野町精華小学校 学習支援業務 学生インターンシップの実施

活動内容・成果：

（１）津野町関係人口創出事業の実施

7月31日 世田谷代田 関係人口セミナー開催

8月6日 津野町 関係人口現地説明会

8月21日 津野町 関係人口フィールドワーク

9月12日 食と農の博物館 関係人口創出事業ワークショップ

9月31日 貝ノ川集落 棚田の里の管理計画ワークショップ

11月 収穫祭即売店部門 津野町物産販売

12月1日 食と農の博物館 棚田のお米講座（棚田米について学ぼう）

（２）津野町精華小学校 学習支援業務 学生インターンシップの実施

8月 学生インターンシップの実施

課題・改善点：活動時の交通費



棚田の里ワークショップ



棚田のお米講座

総務省 津野町関係人口創出事業 2019年度

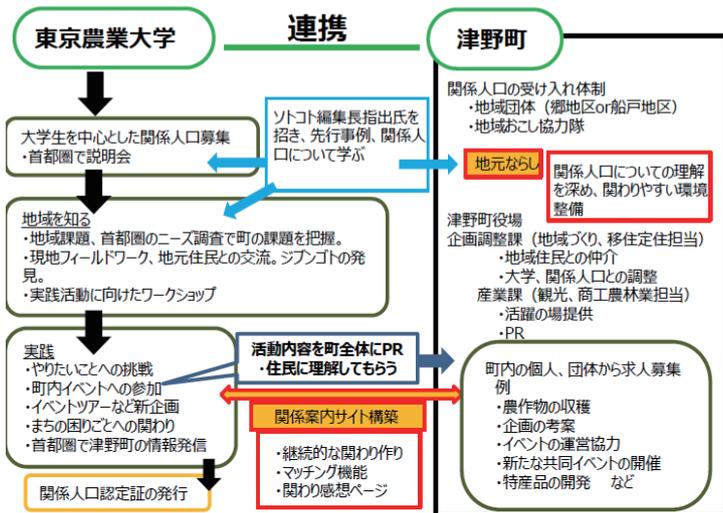
パターン(3)

(高知県津野町)「人がいない」から「人でにぎわう」津野町へ(パターン3)

6,340千円

○住民の高齢化、人口減少に伴い、「やりたいことはたくさんあるけど人がいない」「資源はあるけどそれを活かす人がいない」など、「人がいない」が津野町の課題である。この課題を解決していくために、関係人口のソトからの視点を活かしてジブンゴトとして関わってもらい、まちづくり、地域住民の取り組みが持続可能なものにするを目的とする。

○連携協定を結んでいる東京農業大学と連携して、首都圏の大学生を中心とした関係人口を募集し、地元で活動している地域団体、地域おこし協力隊を中心に関係人口を受け入れ、地元住民と関係人口それぞれのニーズを調査、課題に対する実践活動、継続的に関わり続けられる仕組みづくりを行う。



津野町関係人口創出事業のポイント

ポイント①

東京農業大学との連携

- ・連携協定を結んで、既に関わりがあるためスムーズな事業着手が可能
- ・学生たちに、自分たちが今注目されている「関係人口」であることを認識させ、活動をより発泡にする。

ポイント②

関係人口を受け入れる側の「地元ならし」

- ・関係人口を増やし、継続的な関わりを持つためには、受け入れ側(地元、役場)の関係人口についての理解が必要。(日頃、住民と絶対に関わる役場職員の理解向上は必須)
- ・関係人口についての講演会の開催、トークセッション(地域の編集学校受講生を交えて)

ポイント③

関係案内サイトの構築

- ・事業終了後も地元住民と関係人口が継続的に関わる仕組みが必要。
- ・地元住民と関係人口のニーズをマッチングさせる。
- ・気軽に関係人口と関わる。
- ・関わった後の感想ページを設け、取り組みのPRと情報を共有する。